

「これが日本のお弁当です」



「関西生命線」外国人へ講習会

台湾語や北京語による電話相談を行う市民団体「関西生命線」（大阪市）は5日、設立20

周年を記念した行事の一環で、外国人向けの弁当講習会を、大阪市此花区のクレオ大阪西で開いた。

同団体は、慣れない日本暮らしの手助けに

なればと、1990年から電話相談を中心とした活動を展開してきた。今回は、節目を記念した行事の第1弾として、中国では一般的ではないため相談が多いという弁当作りをテーマに講習会を企画。中国系の家族連れら約30

真剣な表情で弁当作りに取り組む参加者。5日午後、大阪市此花区

人が参加した。

講師らは、日本の弁当の特徴について、揚げ物や野菜など「色彩豊か」と指摘。卵焼きや煮物など、多彩なおかずの作り方を実演した。

参加者らも弁当作りに挑戦。調理から弁当箱への盛り付けまで真剣な表情で取り組んでいた。中国出身の女性（42）＝同市港区＝は「娘が中学生になり弁当が必要になったので非常に助かる」と喜んでいました。

同団体の伊藤みどり代表は「弁当を通じて、親子のきずなを強めてもらえれば」と思いを語っていた。